

第2章 | 環境保全施策の推進

「目黒区環境基本計画」に掲げた5つの基本方針に沿って、2022（令和4）年度に実施した主な環境保全施策の内容について報告します。

基本方針1 省エネのまちづくり

地球温暖化対策を推進する

2017（平成29）～2022（令和4）年度の成果と課題

- 二酸化炭素排出量は、基準年度である2010（平成22）年度末実績値に対して、2022（令和4）年度末実績値では12.1%減少、エネルギー消費量は19.9%減少しており、現行計画の目標を達成しています。
- 低炭素ライフスタイルへの転換は着実に進んでいるものの、国や都の削減目標と同等の目標設定を目指すため、より削減効果の高い取組への転換が求められています。

指標の評価

😊：目標値を達成 😊：目標値に近づいている 😞：目標値に近づいていない —：現状値を把握していない

指標項目	基準年度	基準年度末 時点実績値	2022（令和4） 年度末実績値	目標	評価
成果指標					
省エネ行動に取り組んでいる人の割合※1	2016	81.7%	81.0%	増加	😊※2
関係計画に基づく成果指標					
二酸化炭素排出量※3	2010	1,087 千t-CO ₂	956 千t-CO ₂ (2020《令和2》 年度実績値)※4	2010（平成22）年度を基準とし、区域全体で2014（平成26）～2020（令和2）年度の間で毎年度1%以上、2020（令和2）年度において7%以上削減	😊
エネルギー消費量	2010	13,215 TJ	10,585TJ (2020《令和2》 年度実績値)※4		😊
取組点検項目					
「めぐろ笑 エネトライ」参加件数（☆）	2015	31件	—	—※5	—
めぐろグリーンアクションプログラム（事業所版）参加件数（☆）	2010	23件	22件	増加	😊
住宅用再生可能エネルギー及び省エネルギー設備設置費助成件数（☆）	2010	140件	135件	増加	😊
街路灯のLED化	2017	732基	714基	推進	😊
環境配慮型の道路整備	2017	保水性舗装※6 遮熱性舗装 10,122㎡	遮熱性舗装 1,446㎡	推進	😊

※1 本編P81、82の区民に対する『環境に関するアンケート』の「2. 環境にやさしい行動の取組状況について」の問7の★1マークの項目の集計結果の平均値から算出。

※2 本編P71「標本誤差について」により、数値の増減は誤差の範囲内のため、評価は「目標に近づいている」とした。

※3 「目黒区地球温暖化対策地域推進計画（第二次計画）」では、「地球温暖化対策推進法」の対象である温室効果ガス（7種類）のうち、区の排出量の96%以上を占める「二酸化炭素」が対象。

※4 出典：オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」・2023（令和5）年3月発行「特別区の温室効果ガス排出量（1990《平成2》～2020《令和2》年度）」

※5 「めぐろ笑 エネトライ」は2020（令和2）年度で事業終了。

※6 保水性舗装は2020（令和2）年度で完了。

施策の目標 1-1 低炭素のライフスタイルへの転換

● 省エネ・節電行動の推進

区報や区ホームページにて、省エネ行動を推進するための取組例や、様々な助成制度の案内を紹介しました。

また、区では、国が推進している地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、一人ひとりのライフスタイルの転換を促す取組の周知に努めました。



1回で受け取りませんか
＜COOL CHOICE 1回で受け取りませんかキャンペーンロゴ＞

● 「めぐろスマートライフ」での情報発信

区では、エコライフめぐろ推進協会と連携・協力し、ホームページ「めぐろスマートライフ」を公開しています。

このホームページは、より快適で便利な、思わずトライしたくなるようなアイデアやコツなどの情報を発信し、めぐろスマートライフ（環境にやさしい行動を賢く選択できる暮らし方）を実践していくことで、低炭素社会の実現を目指すものです。

一方的な情報提供だけでなく、区民からもアイデアや体験談を募集し、双方向の発信を目指しています。



＜めぐろスマートライフのキッチン＞



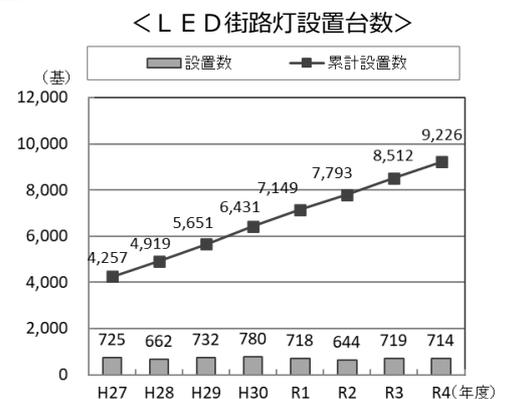
＜めぐろスマートライフ QR コード＞

施策の目標 1-2 エネルギーを賢く使う暮らしの創造

● 公共施設の低炭素化の推進

省エネルギーに配慮した施設の整備を推進するため、区はこれまでに区有施設の改修・改築に合わせて、LED照明を導入してきました。

また、交換時期にあわせてLEDの街路灯を714基設置し、合計で9,226基になりました。



施策の目標 1-3 気候変動への適応策の推進

● 都市型水害への対策

「目黒区豪雨対策計画」に基づき、雨水の地下への浸透を進め、都市型水害を解消するために、流域対策として、雨水浸透柵の整備、歩道や公園における透水性舗装整備を実施しました。また、雨水流出抑制施設の整備を図るため、事業者との協議や、個人に対する助成を行いました。



＜駒場野公園 雨水タンク＞

ものを大切にして循環型社会を実現する

2017（平成29）～2022（令和4）年度の成果と課題

- 1人1日当たりごみ量は、基準年度である2014（平成26）年度末時点実績値から2022（令和4）年度末実績値で45g減少しているものの、目標である1人1日当たりごみ量451gの達成のためには、さらなる対策強化が求められます。
- 生ごみとプラスチック削減については、食品ロス削減推進法とプラスチック資源循環促進法の施行により、事業者の取組が期待されますが、家庭での食品ロスやプラスチックの削減などをさらに徹底していく必要があります。また、テレワークの普及、食事の持ち帰りやデリバリーの増加など、新型コロナウイルス感染症対策で浸透した新しい生活様式を踏まえたごみの発生抑制の手法を検討していくことが求められています。
- 子どもたちへの環境学習は、区内の保育園や小学校などで資源やごみの適正排出、ごみの減量に関する効果的な普及啓発ができています。新型コロナウイルス感染症対策の影響があったものの、2022（令和4）年度には、20回の開催まで回復させており、継続的な取組が求められています。

指標の評価

😊：目標値を達成 😊：目標値に近づいている 😞：目標値に近づいていない -：現状値を把握していない

指標項目	基準年度	基準年度末 時点実績値	2022（令和4） 年度末実績値	目標	評価
成果指標					
ものを大切にする行動を行っている人の割合 ^{※1}	2016	91.8%	96.9%	増加	😊
関係計画に基づく成果指標 ^{※2}					
1人1日当たりごみ量	2014	549g	504g	451g 2025（令和7） 年度まで	😊
リサイクル率	2014	27.5%	25.8%	31.7% 2025（令和7） 年度まで	😞
取組点検項目					
子どもたちへの 環境学習 ^{※3} 実施回数（☆）	2017	31回	20回	現状維持	😊
資源回収量（☆）	2014	20,490t	17,826t	増加	😞
事業用大規模建築物の 排出指導	2016	11回	0回	現状維持	😞

※1 本編P81の区民に対する『環境に関するアンケート』の「2. 環境にやさしい行動の取組状況について」の問7の★2マークの項目の集計結果の平均値から算出。

※2 「目黒区一般廃棄物処理基本計画」で定められている指標。

※3 子どもを対象に、資源やごみの適正排出について、スケルトン清掃車やパネルなどを活用しながら清掃事務所で行う事業。

施策の目標 2-1 ごみをつくり出さない意識の醸成

● 環境学習の実施

子どもたちや周囲の大人たちが資源とごみの適正排出やごみの減量について興味を持ち、日々の生活の中で実践していくことを目的に、ごみ減量キャラクター、紙芝居、パネルなどを活用した環境学習を実施しています。

2022（令和4）年度は、保育園や小学校で、環境学習を20回実施しました。



<環境学習用の普及啓発品>

● 「めぐろ買い物ルール」普及啓発・取組支援

「めぐろ買い物ルール」は、ごみをなるべく出さない賢い買い物（スマートショッピング）を区内に広めるための、リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、食品ロス削減につながる区民・事業者共通のルールです。

「めぐろ買い物ルール」の取組を推進する店舗などを「めぐろ買い物ルール参加店」として登録し、その取組を紹介することにより、ルールの推進及び区民への意識啓発を図りました。



<めぐろ買い物ルール・食べきり協力店ステッカー>

施策の目標 2-2 ごみの減量と資源化の推進

● 食品ロス削減の推進

2019（令和元）年度から開始した「食べきり協力店制度」により登録された食べきり協力店は、2022（令和4）年度末時点で78店舗となりました。また、エコライフめぐろ推進協会では、2021（令和3）年4月から、「フードドライブ」の窓口を常設し、15,119点（3,560.84kg）の食品が集まりました。集まった食品は区内の福祉施設に配布しました。

● 3Rによるごみ減量の推進

目黒区エコプラザのリサイクルショップでは、「もったいない」意識の向上と環境への理解を深めるため、ご家庭で不要になった物をご寄付いただき、欲しい方へ販売しています。またお買い物の際には、特にリデュース・リユースの提唱と発信を行っています。



<目黒区エコプラザのリサイクルショップ>

施策の目標 2-3 ごみの適正処理の推進

● ごみの分別ルールの徹底

ごみの分別ルールの徹底を図るため、排出ルールが守られないなど、課題のある集積所に対して、必要に応じて回収の都度、ごみの適正な排出指導や集積所の改善についての相談を実施しました。また、不法投棄を予防するため、集積所などに警告ポスターを掲示しました。

みどりをはぐくみエコロジカルネットワークを形成する

2017（平成29）～2022（令和4）年度の成果と課題

- 樹林などまとまったみどりが減りつつある一方、屋上緑化や壁面緑化、接道部や生垣など身近なみどりは増えています。まとまったみどりの確保が難しい目黒区において、残されているものを保全・管理するとともに、量だけでなく質にも配慮した身近なみどりの保全と創出を継続的に実施することが望まれます。
- 年によって増減はあるものの、野鳥の年間確認種数やいきもの発見隊での情報提供数は継続的に多数確認されており、生物多様性が維持されているといえます。引き続き、生物多様性保全林の指定等を通じた地域住民や小学校との連携が期待されます。
- グリーンクラブ、公園活動団体など、住民が主体となって自然やみどりの保全・管理に取り組んでいるほか、いきもの气象台、自然クラブや駒場野公園内の自然観察舎を利用した体験型自然学習、サクラ基金による桜の保護、植え替えなど、自然やみどりに対する住民意識の高さや活発な活動は目黒区の特長として未来に引き継いでいく必要があります。

指標の評価

😊：目標値を達成 😊：目標値に近づいている 😞：目標値に近づいていない -：現状値を把握していない

指標項目	基準年度	基準年度末 時点実績値	2022（令和4） 年度末実績値	目標	評価
成果指標					
みどり豊かで魅力的なまち であると感じる人の割合 ^{※1}	2016	69.8%	67.7%	増加	😊 ^{※2}
取組点検項目					
公園・ひろば等の面積	2015	1.80㎡/人	1.75㎡/人	増加	😞
保存樹木本数・ 保存樹林面積（☆）	2014	樹木 119件 521本	樹木 238件 651本	増加	😊
		樹林 26件 85,605.63㎡	樹林 25件 81,504.63㎡		
		生け垣 63件 2,527.9m	生け垣 72件 2,769.65m		
屋上緑化・壁面緑化 助成面積・接道部緑化 助成延長（☆）	2017	屋上・壁面 5,491.65㎡	屋上・壁面 5,808.19㎡	増加	😊
		接道部 10,604.29m	接道部 11,320.67m		
いきもの气象台情報提供数 （1～12月）（☆）	2017	2,953件	2,197件	増加	😞
野鳥の年間確認種数 （☆） ^{※3}	2013	52種	44種	増加 ^{※4}	😞

※1 本編P74の区民に対する『環境に関するアンケート』の「1. 現在のお住まいの身近な環境について」の問1の★3マ
ークの項目の集計結果から算出。

※2 P71「標本誤差について」により、数値の増減は誤差の範囲内のため、評価は「目標に近づいている」とした。

※3 1～12月での累計。

※4 50種を維持し、70種を目指す。

施策の目標 3-1 拠点となるみどりの保全と創出

●公園・緑地の確保と質の向上

長期にわたって潤い感や安心感のある、豊かな質を持つ公園の整備・更新のために、2006（平成18）年度からこれまでに32か所の公園・緑道の改良工事を実施しました。

公園の管理には、住民ボランティアが関わり、花壇、雑木林、土壌、生物の生息環境の向上に寄与する質の高い公園管理を目指し、9つの公園で20団体が住民参加による公園管理を行いました。



<住民参加による公園管理>

施策の目標 3-2 身近なみどりの保全と創出

●住宅地のみどりの保全

区では、一定規模以上の大きさの樹木、生け垣、樹林を保存樹木などとして指定し、維持管理費用の一部を助成しています。なお、2022（令和4）年度までの新規指定の総数は335件となりました。

<保存樹木などの指定状況>

種別	指定対象	指定数
保存樹木	幹周りが80cm以上又は高さが15m以上ある樹木	651本
保存生け垣	高さが0.9m以上で長さが20m以上ある生け垣	72件
保存樹林	300㎡以上の樹林地	25件

●民有建物における緑化の推進・支援

区全体の面積の約7割は、民有地です。区では、民有建物における緑化（屋上、壁面、接道部など）を支援するため、「みどりのまちなみ助成」を実施しています。

<みどりのまちなみ助成の種別・対象と助成の実績>

種別	助成の実績（面積・延長）	
	2022 （令和4）年度	累計
接道緑化 （道路沿い緑化）	63.14m	11,320.67m
屋上緑化 （ベランダ緑化を含む。）	15.55㎡	5,274.28㎡
壁面緑化	0㎡	533.91㎡



<道路沿い緑化の例>

施策の目標 3-3 都市の生物多様性の確保

●区内の自然・いきものを学ぶ機会の提供

雑木林の管理作業や自然観察を通じて自然保護意識の向上を図ることを目的に、自然クラブの開催や駒場野公園内の自然観察舎を利用した体験型自然学習の推進を図っています。

2022（令和4）年度は、自然クラブを24回開催し、658人の参加がありました。また、自然観察舎は11,837人の利用がありました。

健康で快適に暮らせる生活環境を確保する

2017（平成29）～2022（令和4）年度の成果と課題

- 環境基準達成率は、大気（大気汚染常時監視）、自動車騒音（常時監視）について、一部目標を達成できておらず、継続的な監視が求められます。
- 「住み心地よいと感じている人の割合」は向上しており、スイーパーズや清掃イベント「WE LOVE めぐろ」など地域美化活動による一定の成果が感じられます。一方で、犬のふん尿等への苦情件数は増加傾向にあり、地域を巻き込んだ環境美化を継続的に推進するとともに、マナー向上の徹底が求められています。

指標の評価

😊：目標値を達成 😊：目標値に近づいている 😞：目標値に近づいていない -：現状値を把握していない

指標項目	基準年度	基準年度末 時点実績値	2022（令和4） 年度末実績値	目標	評価
成果指標					
住み心地よいと感じている人の割合※1	2016	58.0%	60.3%	増加	😊
取組点検項目					
大気環境基準達成率※2 （大気汚染常時監視）	2010	光化学オキシダント非達成	光化学オキシダント非達成	環境基準の達成※3	😞
大気環境基準達成率 （沿道の窒素酸化物※4濃度）	2010	全地点達成	全地点達成	全地点達成※5	😊
水環境基準達成率 （目黒川）	2010	BOD※6 1地点で4回中、 1回非達成	全回達成	全回達成※7	😊
自動車騒音の環境基準達成率（常時監視）	-	-	6地点中、 昼間2地点、 夜間2地点で達成	全6地点での 環境基準の 達成※8	😞
工場、指定作業場の監察件数	2017	工場 20件 指定作業場 4件	工場 0件 指定作業場 2件	増加	😞
犬のふん尿等に関する苦情件数	2016	80件	127件	減少	😞
キャンペーン・セミナー参加者人数（ポイ捨てキャンペーン）（☆）	2010	57人	39人	増加	😞
キャンペーン・セミナー参加者人数（犬の飼い方セミナー）（☆）	2016	27人	108人	増加	😊

※1 本編P74の区民に対する『環境に関するアンケート』の「1. 現在のお住まいの身近な環境について」の問1の★4マークの項目の集計結果の平均値から算出。

※2 ここでいう「環境基準達成率」とは、それぞれの指標項目で設定した目標への到達度合いのことを指す。

※3 東山中学校屋上で行っている大気汚染の常時監視項目の全項目が環境基準を達成していること。

※4 燃料中や空気中の窒素が燃焼して酸化することにより生成される。健康影響のほか、光化学オキシダントの原因物質のひとつ。

※5 対象道路沿道での窒素酸化物濃度の測定期間中（20日間）の平均値が、全地点（7地点）で環境基準値を満たしていること。

※6 BOD（生物化学的酸素要求量）：河川の水質を表す指標のひとつで、水中の微生物が有機物を酸化・分解するときに消費する酸素の量を示している。BOD値が大きいほど汚濁物質（有機物）が多く、水の汚濁が進んでいるといえる。

※7 目黒川での水質測定の結果が、全地点（3地点）、全回（年4回）で環境基準値を満たしていること。

※8 「国土交通省2015（平成27）年度道路交通センサス」（22区間）を対象に実施する交通騒音測定（面的評価調査）結果が環境基準を達成すること。単年度の測定は、全22区間から偏りのないよう計画的に6区間（地点）を選定して実施している。

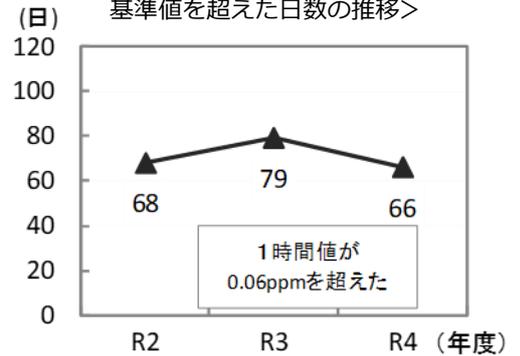
施策の目標 4-1 大気・水・土壌環境の保全

●大気環境の監視・情報提供

区では、東山中学校屋上に大気汚染測定室を設け、毎年、環境測定を実施しています。測定の結果、光化学オキシダントは、基準を達成しませんでした。

また、幹線沿道における窒素酸化物濃度調査を4回（各回平日5日間連続測定）行った結果、測定期間中、環境基準値を超過した日はありませんでした。

<光化学オキシダント濃度が環境基準値を超えた日数の推移>



●河川環境の改善

河川の水質改善や臭気抑制を目的として、目黒川では、河川・水面の清掃、河床整正・浚渫、目黒川クリーンアップ大作戦の実施などを行っています。2022（令和4）年度は、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことで、3年ぶりに開催し、3回実施することができました。



<目黒川クリーンアップ大作戦>

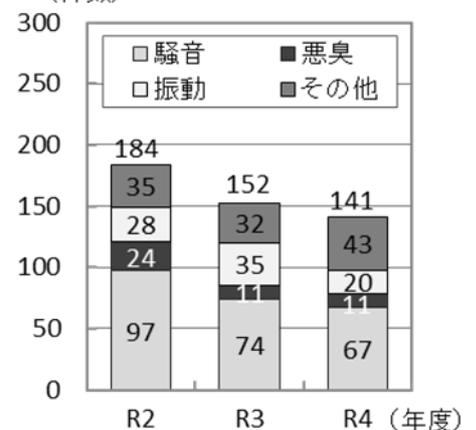
施策の目標 4-2 身近な環境問題への対応

●生活公害（騒音・振動・悪臭等）に係る相談・調整

近年の公害相談は、騒音・振動、悪臭など典型7公害のほか、アスベスト被害に対する不安や一般生活苦情（空き地の雑草、落ち葉）など多岐にわたっており、解決までに時間を要する困難な案件も増加しています。

2022（令和4）年度の公害相談件数は、141件でした。

<公害相談件数>



施策の目標 4-3 住み心地のよい生活環境の確保

●地域美化活動支援

まちの美化活動に対する支援として、スーパーズの事務局運営などを行いました。

中目黒スーパーズの活動実績として、1,097回、延べ6,579人が清掃活動に参加しました。

区では、環境美化推進団体にトンゴやガム取り棒など清掃用具の貸出しや啓発品を提供するとともに、落書き消去剤の貸出しを6件行いました。また1件の落書き防止対策を実施するための経費の補助申請がありました。



<スーパーズ活動>



<中目黒スーパーズ ロゴ>

環境を守りはぐくむ人を育てる

2017（平成29）～2022（令和4）年度の成果と課題

- 出前講座実施回数については、新型コロナウイルス感染症の影響を除き、着実に増えています。小中学生や子育て世代など次世代に向けた講座が展開できているほか、目黒区エコプラザにおいて、さまざまなテーマの講座・講習会がオンラインを含めて実施されており、施策の拡充が図れているといえます。
- 環境配慮活動団体数について、環境に取り組む団体が着実に増加しており、地域主体の環境活動が活発に行われているといえます。一方で、「環境保全に関する取組に参加したことがある人の割合」は伸び悩んでおり、参加者の固定化等が懸念されます。幅広い世代に活動の情報等を伝えることが、参加率の向上及び担い手育成に必要と考えられることから、多様な媒体や自然と目に入ることに配慮した情報発信が求められます。

指標の評価

😊：目標値を達成 😊：目標値に近づいている 😞：目標値に近づいていない -：現状値を把握していない

指標項目	基準年度	基準年度末 時点実績値	2022（令和4） 年度末実績値	目標	評価
成果指標					
環境保全に関する取組に参加したことがある人の割合 ※1	2016	14.4%	13.5%	増加	😞※2
取組点検項目					
出前講座実施回数（☆）	2010	小学校出前講座 15校794人	小中学校出前講座 3校189人 その他出前講座 1回13人	増加	😞
		子育てママの エコ入門 10組20人	子育てママの エコ入門 43組87人		😊
環境配慮活動団体数 （目黒区エコプラザ支援団体）（☆）	2010	8団体	4団体	増加	😞
環境配慮活動団体数 （スーパーズ活動団体）（☆）	2010	32団体	34団体	増加	😊
環境配慮活動団体数 （グリーンクラブ、公園活動登録団体の合計数）（☆）	2014	107団体	116団体	増加	😊
環境推進員ステップアップ 講座・交流会参加者数（☆）	2010	20人	18人	増加	😞

※1 本編P81の区民に対する『環境に関するアンケート』の「2. 環境にやさしい行動の取組状況について」の問7の★5マークの項目の集計結果から算出。

※2 P71「標本誤差について」により、数値の増減は誤差の範囲内のため、評価は「目標に近づいている」とした。

施策の目標 5-1 環境教育・学習の機会の充実

●エコプラザを活用した環境学習

環境に配慮した生活を提案するため、身近な体験を通して楽しく学べる、さまざまなテーマの講座・講習会を目黒区エコプラザで開催し、参加人数は合計で1,185人でした。



<サロン・エコライフ「紙パック de 紙すき体験」>

●多様な媒体を活用した環境情報の発信力の強化

6月の環境月間に、総合庁舎本館西口ロビーで環境パネル展を開催し、温暖化防止対策等の啓発を行いました。

また、エコプラザだよりの発行（計12回）やホームページなどを活用し、広報の充実に努め、目黒区エコプラザの利用促進を図りました。なお、さまざまな機会、媒体を活用することで環境情報の発信力を高めました。

<目黒区エコプラザの利用状況>

利用項目	登録人数 / 利用件数
新規利用登録人数	94人
活動室利用件数	263件
図書貸出し件数	180件

施策の目標 5-2 環境保全活動の推進

●めぐろエコサポーター制度登録者への活動支援

エコサポーター制度登録者は、2022（令和4）年度末で117人となっています。毎月エコサポーターに情報提供を行いました。エコライフめぐろ推進協会のイベントや講座が新型コロナウイルス感染症対策のためほとんどが中止となりました。エコライフめぐろ推進協会ホームページ上にめぐろエコサポーター専用ページを作成し、情報の提供を行いました。

施策の目標 5-3 ネットワークの形成

●地域の環境保全活動の普及および参加促進

2022（令和4）年度「エコまつりめぐろ2022」を地域団体と事業者団体、企業、エコライフめぐろ推進協会及び区が連携して実施しました。地域の環境保全活動の活性化につなげるため、幅広い環境活動に継続して取り組む区民・団体・事業者を顕彰する「エコ・チャレンジ顕彰」では、1団体、1事業者を顕彰しました。



<エコまつりめぐろ2022ソーラーカー>

●他地域との連携による取組の推進

「めぐろエコの森」は、地球温暖化対策に係るカーボン・オフセットを展望した事業の一つとして、2010（平成22）年度に友好都市である宮城県角田市の四方山^{しほうざん}の一角に創設しました。2022（令和4）年度は、自然萌芽する中低木と高木を適切な配置で選択のうえ育成しながら、植栽木と選定木の育成に支障となる雑草等の刈り払いを行いました。



<めぐろエコの森>